

# KIBO NO NIJI きぼうの虹

発行所  
北海道大学生協同組合  
札幌市北区北8条西7丁目  
教職員委員会編集  
電話 011-746-6218

## 主な記事紹介

- 四画 シリーズ「つくる！サステイナブルキャンパス提案プロジェクト」Vol.4
- 六画 こころの健康を考える④ 働き過ぎと人間の幸福
- 七画 博物館へ行こうII 第3回

北海道大学院 渡邊 誠  
教育学研究 院  
北海道大学 江田 真毅  
総合博物館



## 北方生物圏 フィールド科学センター 酪農生産研究施設

教職員写真同好会 伊藤仁浩

今年の夏は、4年に一度のスポーツの祭典であるオリンピックが開催され、日本人選手の活躍が私たちに大きな感動を与えてくれました。そして、もう一つのオリンピック、障害者の「パラリンピック」がオリンピック直後に開催されました。オリンピックに比べて国民の関心はそれほど高くないのですが、私の研究領域と関連しており、こちらをニュースや新聞でよく見ていました。

パラリンピックは、1948年のロンドンオリンピックと同時に、イギリスのストーク・マンデビル病院で行われた競技大会が始まりと言われています。この競技大会は、第二次世界大戦で負傷した兵士たちのリハビリテーションとして「手術よりもスポーツを」の理念で行われました。当初は傷痍軍人の社会復帰を促進する福祉的な目的でしたが、次第に競技性が高まり、福祉ではなく「スポーツ文化」としての理解が深まりつつあります。

障害をもつ方々のパラリンピックに出場するまでの道のりには計り知れない努力があったと思います。まず、自分の障害に真正面から向き合い、きちんと理解して、それを受け容れる障害受容の過程

## Opinion!

**パラリンピック  
～もう一つのオリンピック**

保健科学研究院  
機能回復学分野 助教  
笠原 敏 史



が必要となります。しかし、障害受容には個人差があり、簡単に達成できるものではなく、とても時間のかかる作業です。さらに、パラリンピックに出場するということは、障害受容後、スポーツという新たな世界に挑戦するというこ

パラリンピックの当初の目的は、社会復帰という障害をもつ方々への自立でした。しかし、彼らの一生懸命な姿をみると、健常者である私たちに大切なことを改めて気づかせてくれます。それは「挑戦すること」「諦めない」とことです。障害を抱えた方々は、まず初めに、日常生活を自立するためのリハビリテーションを行います。ここでは、医師を中心に、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士など様々な医療従事者が関わります。しかし、障害者スポーツに関してはこのような手厚いサポートはほとんどありません。したがって、障害者がスポーツに挑戦することは大変勇気のいることと思います。また、競技を始めても障害には個人差があるため、自分自身にあった練習方法もなく、教えるコーチもいないかも知れません。何度も失敗を繰り返したに違いありません。しかし、諦めず、目標に向かってたゆまぬ努力をされたと思います。こうした彼らの姿勢を我々も見習わなければなりません。次回オリンピック、パラリンピックは2020年東京で行われます。全ての日本人選手を応援して、活躍を期待したいと思います。

# 「2016全国教職員セミナー in岡山」報告

9/2(金)～3(土)に岡山市コンベンションセンターで「2016全国教職員セミナー in岡山」が開催されました。

全国教職員セミナーは、大学生協連の全国教職員委員会主催で、二年に一度、開催されています。今年も中国四国ブロックがホストの開催でした。当初は岡山大学キャンパスにて開催の予定でしたが、大学の行事と重なるため、岡山駅直結の岡山市コンベンションセンターが会場となりました。

このセミナーは、毎回テーマを決め、それに沿った講演・シンポジウム・分科会などを行っています。今回のテーマは、「大学教育改革と読書・リーディングリスト運動」でした。全国から、大学の教職員や大学生協関係者約260名の参加があり、会場はほぼ満員となりました。北大からは生協教職員理事3名と生協職員1名が参加しました。

1日目は岡山の就実大学・短期大学の生協発足記念講演を皮切りに、大阪大学の川嶋太津夫教授による基調報告「21世紀スキルを学ぶ機会としての読書」、シンポジウム「能動的学修と読書」が行われました。シンポジウムは4人のパネリストが「アメリカにおける大学教育とリーディング・アサイメント・橋 由加(東北大学教授)」「初年次教育の重要性とリーディング&ライティング・杉谷祐美子(青山学院大学教授)」「大学図書館におけるラーニング・コモンズの取り組みと読書・佐々

木俊介(桜美林大学図書館職員)」「大学教育における電子図書利用の有用性と可能性・針持和郎(広島修道大学准教授)」についてそれぞれ報告が行われました。

2日目は「学びと読書」「食と安全」「環境と防災」「グローバル社会と平和」「協同組合教育と組織づくり」の分科会に分かれ、それぞれの分科会で2時間ほど報告や活発な討議が行われました。その後、特別企画として南川秀樹氏(日本環境衛生センター理事長)による講演「里海、里山に学ぶ」と、大学生協東京事業連合による「電子書籍を使用した新しい授業を考える」が同時並行で開催され、昼でセミナーは終了となりました。

昼からは希望者のみのエクスカージョンがあり、岡山市から車で1時間ほどの日生(ひなせ)に向かいました。日生は漁業の町ですが、ここで長年取り組んでいる「アマモの再生」事業について漁協や中学校の先生が紹介して

くれました。

今回のセミナーでは、基調報告やシンポジウムを通して、「読む」ことが全ての学習の基本であること、日本の大学生はその基本ができていないことを認識しました。大学生の読書について、さらにその推進活動を進めていかなければならないことを痛感しています。その方策の一つとして、「学びと読書」分科会において報告された大阪大学V S学生団体書評対決は大変興味深いものでした。教職員と学生が書評対決し、生協書籍部で書評した本の売り上げで勝敗をつけようという企画です。そのプロモーションビデオを学内に流し、それにより読書推進活動が活発化しているとのことでした。是非、阪大生協特設ホームページ「ブックコレクション 教員V S学生団体書評対決」でプロモーションビデオをご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=Y5lm8GjInCg>



## いじわるじいさん

7月13日、アムステルダム家の『アンネ・フランクの家』に向かった。運河の橋を渡ると長い行列に出会う。脇を通過して14時に「家」に到着。列は15時30分開始の日券販売を待つ人々だった。来た道を戻り最後に付き2時間。更に1時間待つと言われ、やむなく離脱▼寒さに身を縮め、樹々と茶色のビルを眺めて待つ間、あれこれ思いを巡らせていた。この道を黄色い星をつけたアンネが通ったのだ。音に怯えて暮らしたのはあの建物。ゲシュタポに連行されて行つたのはどの道か：▼行列を見れば、世界各地から来たとおぼしき人、人、人……。どんな思いで、こんなに長い時間を待っているのか▼帰国後『アンネの家を訪ねて』(NHK BS)を録画で見た。並び待つ人に焦点をあてた番組だ。インタビュアーに

応じた人の中に、ヒットラーの迫害から生き延びた人がいた。独軍協力の記憶に悩み自殺した父をもつ娘がいた。ネパールに逃げたチベットの宗教者もいた▼世界の現実から発せられる肉声に胸を突かれ、隠れ家を見ようと待つ彼らの気持ちに、今も続く苦しみが見えるような気がした。寒さに震えた私のあの時間が貴重なものになる。(今日子)





## キャンパス放浪記 in 函館…第8回

### 函館校园之一年四季

#### ～函館キャンパスにおける季節ごとの魅力～

北方生物圏フィールド科学センター（北方生物圏領域科学中心） 邵花梅

北海道大学の函館校区坐落在函馆市港町，离津轻海峡码头很近，但是离函馆站，以及最近新建好的新干线新函馆站，机场等有一些距离。交通并没有很方便，正是因为如此，校园一直很静谧，静静地迎接着每一天的太阳，每一年新生的到来。

正如俗话所说麻雀虽小，五脏俱全。在这个校园里管理研究栋，图书馆，讲堂，食堂，体育馆一应俱全。首先进入正门看到的是最近经过装修焕然一新的管理研究栋，六层的建筑物在这里也算是一个小小的地标。从六楼的窗口可以欣赏到函馆山的全景，休息时眺望一下远方是一个不错的选择。北水图书馆里各类资料也是应有尽有，如果有想看的书在图书馆没有在札幌校园藏有的话也可以预定，给大家提供了很多的方便。讲堂是举行开学以及毕业典礼的地方，毕业生以及家长们会盛装出席。在体育馆里每天都有师生在挥汗如雨，享受运动带来的乐趣。另外，每周六下午一点到三点钟是留学生可以使用体育馆的时间，各个国家的留学生会不约而同的到体育馆组队打篮球，羽毛球等等。偶尔也会被借用当做趣味运动会的比赛场地。

不仅校园内设备比较齐全，周边也有各类饮食店，超市，便利店等，其中正对面的一家就是函馆有名的幸运小丑汉堡店。后门附近有超市和药妆店，侧门旁边有便利店，给师生提供了很多的方便。

一年之计在于春，一天之计在于晨。这句话强调了春天在一年四季中和早晨在一天中所占的重要位置。函馆的校园也在春天焕发生机，期待已久的樱花季终于来临，经过樱花盛开的校园内小路去研究室时感觉心情也因烂漫的樱花而变得美好。虽然早晨走进函馆校园并没有朗朗书声，但可以看到凌晨星空渐渐转白，老师和学生们渐渐来到学校，呼吸着清新的空气在清新的早晨迎接新的一天的到来。期待已久的春

天到来之后樱花盛开，阳光下的樱花非常明媚（图1），夜晚的樱花也不甘示弱，在路灯下亦美丽耀眼（图2）。仍然春寒料峭时各个研究室开始了樱花下的烧烤大会，平日傍晚以及周末都热闹，不仅学校的师生，家属们以及活泼烂漫的孩子们也加入其中，更给这个校园添了活力。夏天绿树成荫，一切生物生机勃勃，是函馆校园最热闹的一个季节，夏季烤肉活动也会不定期举行。秋天天气变凉，到了赏红叶的季节，校园也是一个好去处。另外，学校文化节是非常热闹的一个活动，举行的时期和札幌本部不同，是在金秋十月。文化节时不仅会有水产学部特有的水产物贩卖，例如少见的鲸鱼，也会有各个国家的料理小摊，部分学生着民族服装，给校园更添加了些许外国色彩。也会有小朋友们超级喜欢的捞金鱼项目等等。这个活动让市民更加的了解到了函馆校园以及水产学部的魅力。冬天虽然寒冷，大雪过后积雪可以达到半米，但是同时可以拥有浪漫雪景。校园里的一切都银装素裹，早上醒来惊艳于雪白世界。堆个雪人（图3），打个雪仗也是玩的不亦乐乎。

一年四季皆有不同的风景，它们迎来又送走一届又一届的学生。每一位学生也在体验不一样的学习和生活，对校园有不同的情感，亦经常会有校友们回到美丽的母校看望老师后辈们以及回忆青春，畅想未来。

#### 【日本語要約】

函館キャンパスは函館市の港町にあり、交通は少し不便かもしれませんが、静かで勉強ができる場所です。大きくありませんが、建物は様々で、勉強はもちろん生活にも便利です。季節ごとに魅力がありますのでそれぞれを紹介させていただきます。様々なイベントも行っていますので普段は静かな場所ですがたまにはにぎやかでもあります。



图1 早晨的樱花（朝の桜）



图2 夜晚的樱花（夜の桜）



图3 雪人（雪だるま）

シリーズ「つくる！サステイナブルキャンパス提案プロジェクト」Vol. 4  
**中央食堂はなぜ「ダメ」なのか②**  
**「施設改善」という発想を超える**



理学院博士2年  
本間 真佐人

前回の内容に引き続き、視察第1回から得られた経験を踏まえて考えたことを書いていきたい。関東圏の大学生協には施設改善を専門とする職員がいて、利用者の様子や現場の状況を観察・分析することで、施設の問題点を導き出していた。また、こうした手法を取っているのは、利用者から直接改善案を募ったとしても、施設に反映させることが困難なケースが多いためであった。では、施設に対する意見を学生から直接集めるためのワークショップを開催しようという我々の試みには、「意味がない」のだろうか。あるいは、意味のある試みにするためにはどうしたらよいのだろうか。

**視点のズレ**  
 我々のプロジェクトにも、「組合員の意見には生協運営に反映しづらいものも多く、実質的にどう扱ったら良いかがわからない」という問題が念頭にあった。そもそも我々の世代は、生協に対して当事者意識を抱くことがあまりないように思われる。私の場合、北大生協で活動を始めるまで「生協は利用者をつくりあげるもの」という意識を持つことはなかった。単なる一利用者として接していた時、私にとっての生協はただ市場の中で与えられている「サービスの1つ」に過ぎず、自分自身がそれをつくる主体であるという自覚は全くなかった。ひよっとすると、多くの利用者と運営の間には、生協の捉え方に関するズレがあるのかもしれない。すなわち、利用者にとっての生協は、自分がつくるものではなく、既成のものあるいは与えられるものではないか。

一般的な利用者は、具体的な個別的な事例にしか気付くことができない。何か意見をあげる時も「中央食堂の2階は暑い」とか「昼時に中央食堂に行くと席が見つからない」など、その時に感じた不満であることが多い。利用者からの意見を集約し、日々利用者の様子を見ている運営者は、様々な意見や利用者の様子を勘案して、「(改善を伴うような大規模な)施設改善が必要だ」という結論を出すことになるかもしれないが、利用者個人は、日々利用するなかでそこまで長期的な視点で生協について考える必要性を感じることがない。利用者の大半を占める学生は、限られた期間しか生協を利用しないから、個別の事例に対応してもらえれば十分なのであって、大規模な改善はむしろ不便だけなのである。

個別的な事例と「施設改善が必要だ」という結論の間にはギャップがある。少なくとも、個別の訴え自体は小規模の改善要求であり、対症療法的にそれぞれの訴えに対応すれば事足りる。このギャップを埋めないことには、利用者と運営者が同じ視点で施設について考えることはできない。大規模な改善が必要に思えるほどの意見が集まりながらも、それぞれの訴えからその必要性が読み取れないという状況が生まれる背景には、こうした事情があるのではないか。

「嫌なところ」ではなく「欲しいもの」を考へる  
 生協との関係性に関する認識のズレと、導かれる結論間のギャップ。それぞれを意識した上で、我々の試みを意味のあるものにするためにはどうしたらよいか。

前回の記事にも書いた通り、そもそも「施設改善」という言葉には「ダメである」という前提が含まれている。施設改善そのものの必要性も含めて利用者に問うことを意識していた我々としては、この前提を参加者と共有したくなかった。したがって、「施設改善」という結論に誘導しないことを心がけつつ、「生協をつくりあげる」という視点で中央食堂について考えられるような場を提供できれば、有意義な試みになるはずだと考えた。

視察の際に撮影した写真を3枚載せる(左)。これらはどれも、学生が必要とするものを「想定」して設置されたものだった。したがって、利用者の直接的な意見によって設置されたものではない。しかし、いずれも利用者が比較的簡単にあげられるようなアイデアに思える。これは、視察で得られた1つの重要な気づきであった。福利厚生施設に「あったらいいな」と思うものをあげることは、おそらく誰でもできる。

設計段階から学生の意見を取り入れるということは、「生協をつくりあげる」という感覚の醸成にも繋がる。生協の認識に関するズレは、個々の声の無力感から来るのではないかと私は考える。改善されそうもない施設に順応するだけの日々を超えて、学生自らが施設をカスタマイズできるような機会をつくりだす。こうした試みを継続していくことで、「生協は自らつくりあげるものだ」という意識を定着させていくことができるのではないだろうか。

「施設改善」という発想を超える  
 学芸大第二食堂2階:グループワークができる机。他の用途を想定した机もあった



学芸大第二食堂2階:グループワークができる机。他の用途を想定した机もあった



農工大「ペガサス」2階ウッドデッキ:解放感と気温が相まって居心地がよかった



農工大「エリプス」:窓際の一人席では電源がとれる



# Peace now! Okinawa 2016 報告

## Peace now! Okinawaに参加して



工学部4年  
金根佑  
(キム・グマ)

私は2016年度Peace now Okinawa (9月5〜8日)に、北大生協留学委員会メンバーとして参加しました。沖縄に行く前は、きれいな海や異国的なイメージしかなかったですが、今回のPeace nowを通じてそのような明るいイメージだけではなく戦争の痛み、多くの人の苦しみについても分かるようになりました。

まず、平和祈念資料館、アブチラガマ(沖縄戦の時日本人達が暮らした洞窟)見学や沖縄戦争の体験者による証言を聞いて次のようなことが分かりました。戦争を通じて直接戦った兵士達だけではなく、普通の人も看護員などで戦争に動員され苦しい経験をするか、何も知らず攻撃によって死ぬ人達もいたことを知り、「戦争は本当に多くの人々に苦しみ、悲しみを与えるだけで二度とあってはいけないこと」だと切実に感じました。

また、米軍による事故や米軍基地の設置、移転問題などについても賛成・反対の両方の立場をよく学びました。私の母国である韓国と同様な問題がありますので、いろんな人により興味深く議論し、どのように解決していくべきかについて深く考える機会にもなりました。

最後に、今まではこういう問題に直接関係したことがなく、第三者の立場から「自分とはあまり関係ない」と思っていました。3泊4日のフィールドワーク、様々な人と感想交流会を通じて、平和問題について積極的に議論し一人一人の力を合わせて解決していくべきであることを分かりました。

この記事を読んだ皆さんも平和について考え、学ぶ機会であるPeace nowに是非参加してみてください！



# 教職員組合員加入キャンペーン 10/3(月)~11/30(水)まで

生協の店舗・サービスは、生協に加入してからご利用ください

### 加入申込

#### 加入の方法

出資金は、5口5,000円をお願いしています。下記受付店舗へ出資金をそえてお申込みください。

#### 加入手続き受付店舗

生協会館1階、クラークサービスセンター、北部購買、工学部購買、中央購買、水産購買各店のサービスカウンター

プリペイドおよびポイント機能は、大学から発行される「職員証カード」に搭載されます。生協店舗ご利用の際は、職員証カードをご利用ください。



教職員で未加入の方は、上記店舗にご来店いただくか、理事会室(大学内線:3285)にご連絡いただけましたら加入用紙をお届け致します。

加入時の出資金は教職員の方は5千円をお願いしています。転勤・退職等で北大を離れる際には、生協の脱退手続き時に全額返還いたします。

**11月30日(水)までに加入申し込みの方は、  
チャージ1,000円と200ポイント、書籍割引パスを  
特典としてプレゼント。**

加入していない方をご紹介いただいた方にも  
チャージ1,000円プレゼント

### 特典

ご利用の際は組合員証または職員証の提示をお願いしております。

#### 書籍

##### 現金割引(セール)

書籍10%引き年末謝恩セール文庫バンドル企画10%引+ポイント還元など。

##### web和書注文

web注文承ります。学内配送または店頭受取り。

#### 購買

##### 灯油定期配送

組合員価格で定期配送。

##### 自動車学校入校

生協窓口のお支払いで、直接入校より約16,000円お得にご利用出来ます。

##### スーツ購入

提携店にて組合員価格で購入できます。

#### 旅行

##### ホテル「東横INN」申込み

全国各地に展開中のホテルチェーン「東横INN」を組合員価格にてご利用いただけます。

#### 食堂

##### コンパ申込みでサービス

各食堂のホールを使用する、30名以上のコンパにつき、幹事さん1名分サービス。

#### 保険サービス

##### 自動車保険申込

団体・集団扱い保険料で加入(北海道協同保険サービス)。

### ポイント還元

書籍購入5%、食堂・購買での食品購入1%

# 心とからだ健康を考える

大学院教育学研究院 准教授

## 渡邊 誠



現代日本は効率が重視される社会です。労働力、時間、費用に対して、どれくらいの効果、成果があるかが問われます。私たちは、いきおい限られた時間の中で、いかに多くの仕事をこなすかというところに腐心することになります。本当に、今はいろいろある所で、私たちは仕事してまずよね。カフェ、ホテル、駅や空港の待合室、電車や飛行機の中は言うに及ばず、そのへんの広場や、道を歩きながらといったことまで。パソコンやタブレットの普及と、通信手段の制限のインターネットによる大幅な減少が与つてのことでしょう。

なんだか学生の頃などに、歩きながら外国語の単語を憶えていたのが、日常全体に広がつたような印象があります。十年前前、忙しくてまともに食事をする時間がとれなかつた夕暮れどき、北大の真ん中の通りをおにぎりや食べながら歩いていたら、すれ違う人からへんな目で見られた経験があるのですが、今なら別に驚く人もいないかもしれませんね。

ところで仕事の効率化や過密化に、限度はあるのでしょうか。更なる技術的な進歩によって、思いがけないことが実現するようになるのかもしれない。高校生対象の進学相談会を担当する際に、北大の研究を紹介する冊子『知のフロンティア』に目を通したのですが、私はその内容に圧倒されました(未見の方は、ぜひご覧あれ)。科学技術の発達はちよつと予想を超えるものがあると思います。

しかし、人間の側には、明らかに限界があるでしょう。現在、日本の企業の人事担当の方の多くが、どうしてウチにはこんなになくさん鬱の社員がいるのかと悩んでいるそうですが、研修等で他社の事情を知るに及んで、どこも同じかと思うのだそうです。個人人のストレス対処能力の向上ということも、限度を超えれば本末転倒であろうと思います。ところで、多くの仕事を緊密に効率よくこなしてゆくことには、ある種の爽快感や達成



感がありますよね。行動における機能美と言いたくなるような、私たちの感覚を満足させるもの。これは、ある時点を越えると、アクロバティックな快感に近づくのかもかもしれません。そして、自己有能感と言いまじょうか、この場合であれば仕事ができるという自分自身に対する評価。そして、仕事ができる人、頼れる人という周囲からの評価と眼差し。これらはなかなかの曲者であつて、それこそクセになりそうです。しかし心身の健康のために、あるいは老化などによって、仕事の量やペースを落とさざるを得なくなつたとき、私たちは多かれ少なかれ、これらの心地良い感覚や評価を手放さなくてはなりません。なかなか難しい問題だと思ひます。

人間全体における進歩や発展と言われるのは、基本的には自己有能感を高めてゆく方向にあると言つてよいでしょう。様々なものが思い通りに操作できるという時代からみると超絶的な水準に達していると思ひます。しかし、人間がいずれは死すべき存在であるという限界は、今のところは動かすことができません。私は、限界に挑戦し、それを乗り越えてゆくというアプローチとは反対の、限界を根源的な部分で認めようとするところから生まれてくる何かがあるような気がしてなりません。しかも、この二つは一見真逆に見えて、実は深いところでつながっているのではないかと。いずれ老化のメカニズムが解明されたとき、この死すべき存在であるという人間の条件自体が変わつて、ヒトは全く新しい次元の生き物へと変貌してゆくのかもかもしれません。



## 自転車企画

北大生の自転車マナーが良いとは言えない状況にあると学生自身も感じているようです。昨年、学生委員会で行つたアンケートでは、105人のうち73人が「北大生の自転車マナーは悪い」「どちらかと言えば悪い」と答えていました。そのような現状を改善するために、自転車マナーの呼びかけを行う活動を、7/13(水)・14(木) 11:00~16:00に北大体育館前で行いました。また、昨年も行い好評であつた、自転車の無料点検も行いました。2日間で150名を超える参加がありました。



自転車マナーの呼びかけでは、クイズを作成して解いてもらう、自転車マナーに関する冊子「NO SAFE NO RIDE」を配布する、ホワイトボードを用いて交通ルールを伝える、ということを行いました。これらを通して、自転車マナーについて知ることができ、これから自転車マナーを守つて自転車で乗ろうと思う、といった声もあり、自転車に安全に乗ろうという意識が参加者に広がつたと思ひます。

自転車の無料点検では、業者の方とも協力しながら行いました。空気入れを定期的に行わず、空気が抜けている自転車も多くありました。定期的に空気を入れることでパンク防止にもつながります。他にも、タイヤが割れていたり、ブレーキが効きにくかつたりと危険な自転車もありました。

またその他にも、共済と学生賠償責任保険の説明も行いました。自転車に乗つていて事故を起こし、高額賠償となる事例もあります。そのような、もしものときに備える保障に加入しておくことをおすすめします。

これからも北大生の自転車マナーの改善に向けて様々な活動を行っていきます。(学生委員会)





# 博物館へ 行こうII

第3回

### 北大の魅力を全部みせたい!

北海道大学総合博物館リニューアルオープン

北海道大学総合博物館 講師 江田 真毅



れています。

今年7月26日にリニューアルオープンした北海道大学総合博物館(以後、北大博物館と呼びます)。当初私たちが想像していた以上に連日たくさんの方々にお越しいただき、9月8日に再オープン後5万人目の来館者を迎えました。

前号・前々号に引き続き、今号でも北大博物館のリニューアルについて紹介します。今回の展示リニューアルのコンセプトは1.北大の魅力を全部みせる、2.より市民に愛される博物館になる、の2つでした。今号では、このうち1に関連して新設した、現在の北大の姿をご覧いただく常設展示「北大のいま」を紹介いたします。北大博物館の展示面積全体の約3分の1を占める「北大のいま」は、「挑戦する北大」、「北大の学び舎」、「北大の探究心」の3つから構成さ

「挑戦する北大」では、本学が時々刻々と変化する社会的要請に応えるために、常に挑戦を続けていることの表現を目指しています。大学本部からの推薦を受けて、現在は食・運動・健康・医療の連携によるイノベーション創出を目指す「フード&メイカライノベーション推進本部」と、北極域の持続可能な活用と保全を目指す「北極域研究センター」の挑戦について紹介しています。クイズ形式で北大や食、健康について学べるフード&メイカライノベーション推進本部の展示スペースでは、毎日たくさんの方々がクイズに挑戦しています。

「北大の学び舎」は、人文・社会・自然科学を網羅する本学の全12学部を紹介するエリアです。皆さんは12の学部をすべて

挙げる事ができるでしょうか?文学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、理学部、水産学部、農学部、獣医学部、経済学部、法学部、教育学部です。各学部の展示スペースでは、それぞれの学部に応じたような学科があり、どのような教育や研究が展開されているのか、そして卒業生がどのような進路を選択しているのかを紹介しています。また、各学部で学ぶ学生の生の声を反映させる黒板や、プレスリリースやセミナーの告知などの学部の情報を示す掲示板とラックも設置しています。

「北大の学び舎」でぜひご注目いただきたいのが、各学部の一押し研究者の研究紹介です。各学部にご推薦いただいた今が旬の研究をされている先生方に取材を敢行し、その研究についてQ&A方式でまとめました。その題材は、ロケットから

陽子線治療、地域通貨、隕石、薬、海藻、未病状態、理屈、ダンス、骨、アライグマ、インフルエンザ、そして子どもの貧困まで非常に広範です。本学で日々進展している最先端研究の数々。その一端に触れられるのが大学博物館ならではの魅力であると自負しています。「北大の学び舎」はメインターゲットを高校生としています。修学旅行などで北大博物館を訪れた全国の高校生が、自身の興味や目標を満たすためにどの学び舎を目指せば良いのかを考える場を提供できればと願っています。

本学では学部に直接関わっていない研究所や研究センターなどでも特色ある活動が展開されています。「北大の探究心」では、ほんの一握りながら、それらの部局の研究や教育、産官民との連携による成果などを紹介しています。現在は、北方生物

圏フィールド科学センター、地震火山研究観測センター、アイヌ・先住民研究センター、スラブ・ユーラシア研究センター、産学・地域協働推進機構、総合博物館の6部局の展示スペースがあります。リアルタイムで起こわれている地震波の観測状況を示すパソコンやアイヌ民族が利用していた鳥用の罝の模型など、皆さんの探究心も刺激する各部局ならではの展示をご覧いただけます。

現在の北大の姿を紹介する「北大のいま」。現在の姿は、外側から見えていたのではなかなかわかりません。いずれの展示も関連する部局の教職員の方々のご協力を得てはじめて作成できたものです。お忙しい中でもかかわらず展示準備にご尽力いただいた皆様にごこの場を借りて改めて厚く御礼申し上げます。



北極域研究センターの展示スペース



歯学部の展示スペース

#### 総合博物館基本情報

##### 開館時間

10:00 ~ 17:00 (通年)  
ただし、6月~10月の金曜日は10:00 ~ 21:00

##### 休館日

月曜日(月曜日が祝日の場合は直後の平日)、及び年末年始

入館料: 無料

北大生協には「学生・院生・留学生・教職員」の4つの組織委員会があります。

# 北大生協組織委員会報告

## 学生委員会

■店舗活動「こづばいぐらしー」  
生協店舗の特色のクイズを購入し、店内に設置し参加者に解いてもらう企画、活動時期が七夕に近いことから短冊に見立てた組合員の声カードに願い事を書いてもらう企画を7月19日～22日に北部購買、会館店購買で行いました。

今後、組合員の声カードをもっと有効に活用できるように様々な活動を行っていきます。

### ■オープンキャンパス活動

8月6日～9日に行われたオープンキャンパスに訪れた受験生に向けた活動を行いました。昨年に引き続き、受験生応援冊子「NITOVE」、現役北大生と直接話してもらった「北大生と話そう」、北大構内を案内する「道案内」、北大生の生活の様子や受験生時代の様子を写真などで紹介する「まると北大生展」などの企画を行いました。さらに今年はいくつかの質問によりおすすめ学部を紹介する「おすすめ学部探してぶらり」を行いました。

後期からは、受験生・新入生に向けた活動が増えていきますので、よろしくお願ひします。

### ■学生委員会公式HP

<http://hokudai.gi.web.fc2.com/>

### ■学生委員会公式Twitter

@HU\_COOP\_GL\_CS

### ■学生委員会連絡先

gakusei@coop.hokudai.ac.jp

## 院生委員会

■今年もやっちゃおうよ！  
書評誌「2016ほんでないかい」発行準備中!!

委員会では毎年恒例となつてい

る書評誌「2016ほんでないかい」を12月の発行にむけ、企画準備中です。書評の投稿を院生に呼び掛けています。投稿者には、800円の書籍利用券を差し上げます（ただし、生協組合員の方に。詳しくは投稿ポスターをご確認ください）。奮って書評の投稿をお願いします。今年の「ほんでないかい2016」冊子の構成は、院生からの書評（投稿の呼びかけ）と、特別企画・北大OB北海道テレビ放送（HTB）アナウンサー谷口直樹さんにインタビューを予定しています。ご自身のこと以外にライターズ選手のアレコレをお聞きする予定です。

## 留学生委員会

■新企画「COOPYンターナショナルアワー」8月1日開催

今後のイベント展開に向けたテスト開催として、留学を機に札幌で生活している留学生のみなさんが困っていることや生協に望むことを自由に話し合う場を設けました。中央食堂2階を会場に、参加費無料で20名の参加定員で準備を進めていました。

しかし、当日授業や講義の関係でドタキャン者が続出し、ちょっと寂しい11名参加となりましたが、ハラルで用意した日本の夏の家庭料理を食べながら食



に関わるお国事情の話題を皮切りになごやいだ雰囲気の中、様々な意見や質問・要望が出されて大いに盛り上がりました。

■生協の認知度・利用状況・要望等のアンケートに41名回収

集計結果は生協各店に配布済み

■「Peace Now 沖繩」参加

本紙5ページ「報告」掲載

■「国際交流セミナー」

9月24～25日 3名参加

■「新入留学生歓迎企画予定」

①無料提供の日用雑貨品回収…9月20日(火)～10月5日(水)

②国際本部「新入留学生オリエンテーション」生協紹介・イベントへの誘い…10月4日(火)

③ウエルカムパーティチケット販売開始…10月4日(火) 16時～

④新入留学生ウエルカムパーティ…10月14日(金) 中央食堂2階

## 教職員委員会

■教職員総代会議 学内7ヶ所

8月を除く毎月1回、昼休みを利用して開催しています。生協の営業報告の後、教職員の皆様に利用者の立場から色々なご意見をうかがっています。

7月は12日～14日、8月はお休みです。

■教職員委員会 毎月1回、18時～19時半に開催しています。総代会議で上がった組合員の声についての検討、きぼうの虹の編集・発行について討議しています。

7月は14日、8月は10月に拡大委員会を開催予定のため、お休みしました。

■「きぼうの虹」この冊子です。教職員委員会が編集し偶数月に発行しています。

今号の「キャンパス放浪記巨函館」は、中国語バージョンです。日本語は短い要約しか掲載できませんでしたが、漢字なので中国語に疎い方でもじつと見てると、なんとなく判りますよね。

■編集後記

きぼうの虹366号をお届けします。

台風が通り過ぎたら秋になりました。今年の台風では多くの地域が甚大な被害に見舞われていました。被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

「災害は忘れた頃にやってくる」という言葉が通用しなくなっています。自然に対する「恐れ」を常に心にとめていなければと考えています。

大学院生の大学院生による大学院生のための書評誌

**ほんでないかい -2016-**

大学院生のあなたがオススメする本の書評(180文字程度)をジャンルを問わず募集中!

採用されると書籍部利用券800円分プレゼント!!

※募集期間の都合、郵送の上取り扱います  
採用は大学院生協組合員に限りません

詳細・投稿はこちらから→  
募集締切 10月31日

univ. 北海道大学生活協同組合院生組織委員会  
C O O P 北大生協院生委員会  
<http://www.hokudai.seikyoku.ne.jp/~net/>

f @Hokudainsei\_coo